

ほんどううるしばしいせき 5. 本堂 漆橋遺跡

所在地：坂井市春江町本堂

調査原因：県営かんがい排水事業 河合春近用水東地区

調査期間：平成25年10月1日～11月29日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：600 m²

時代：弥生時代後期末



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要

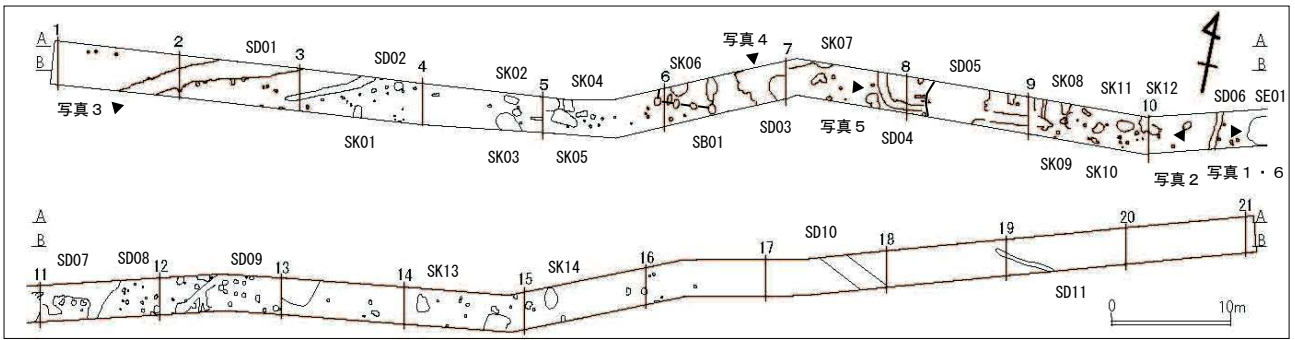
本堂漆橋遺跡は、坂井平野の南部に位置し、磯部川左岸の自然堤防上に立地します。調査区の旧地形は、大半が微高地からなり、東方へ緩く傾斜しています。微高地では、遺物包含層の黒褐色粘質土、地山である黄褐色や緑灰色粘質土の順で堆積していました。ほ場整備などによる削平が地山上位まで及んでおり、本来の遺物包含層や遺構面は遺存しない状況でした。

遺構は、掘立柱建物 (SB) 1 棟、溝 (SD) 11 条、井戸 (SE) 1 基、土坑 (SK) 14 基、ピット約 80 基を検出しました。調査区中央から西側で多くまとまり、SD01 以西や同 09 以東ではまばらとなります。SB01 は、3 間×2 間以上の側柱建物で調査区北側へ広がります。SD01 は、やや幅広く北東方向へのびます。同 03・05・08 は幅広く南北方向、同 04 は途中で大きく湾曲して細長くのびます。いずれも弥生土器が数箇所ですべて出土しました。また SK08 は、SD04 と同様な断面形状であり、調査区北側へのびる溝とも考えられます。SD04 と SK08 は対をなし、他の遺構の一部と推察されます。SE01 は、井戸側に木組を持ちます。掘方は平面が円形状、中程は四隅がやや丸く張り出す方形状を呈し、長軸約 2.2m を測ります。断面は上部で大きく開き、深さ約 1.8m を測ります。木組は、大半が倒壊しており不詳ですが、方形の縦板組で隅柱をもつ構造であったとも考えられます。また、覆土から丸太刳抜材や縦板材などの木製品が多く出土しました。

遺物は、天箱 13 箱分出土しました。包含層が 3 割で遺構が 7 割であり、特に SD03～08 と SE01 で多く出土しました。土器は、弥生土器の甕や高坏・器台などであり、SE01 から木製品も多く出土しました。

狭小な範囲ですが、調査区中央から西側を中心に多くの遺構や遺物を検出しました。時期は、弥生時代後期末が中心であり、集落の一端を調査したと考えられます。

(田中勝之)



第1図 調査区平面略図 (縮尺1/600)



写真1 調査区東半全景 (西より)



写真2 調査区西半全景 (東より)



写真3 SD01検出状況 (南西より)



写真4 SD03遺物出土状況 (北西より)



写真5 SD04・05遺物出土状況 (西より)



写真6 SE01井戸側検出状況 (西より)